

概要

【目的】

相談支援従事者研修（以下「研修」という。）を、円滑かつ効果的に行えるよう、研修カリキュラム等について検討する。

【年間活動方針】

- ・「東京都で活動する相談支援専門員の姿 Ver.6」を完成させる。
- ・相談支援従事者研修（初任者研修・現任研修・主任相談支援専門員研修）の新カリキュラムを作成する。
- ・専門コース別研修のテーマとして必要と思われる内容を確認する。
- ・次期講師の育成と講師間の関係づくりを目的とした、演習指導者養成研修のカリキュラムを作成する。

【委員構成】

敬称略、五十音順

| 番号 | 名前 | 所属 |
|----|--------|-----------------------------------|
| 1 | 秋元 妙美 | CIL ちょうふ |
| 2 | 池田 克子 | NPO 法人秋川流域生活ネットワーク をとん |
| 3 | 北川 悦子 | 社会福祉法人同愛会 板橋区立加賀福祉園 |
| 4 | 佐藤 繭美 | 法政大学現代福祉学部 |
| 5 | 杉田 泉 | 社会福祉法人江戸川菜の花の会 まある相談支援事業所 |
| 6 | 塚田 芳昭 | ILみなみ Tama |
| 7 | 堤 愛子 | NPO 法人町田ヒューマンネットワーク |
| 8 | 中島 美穂子 | 社会福祉法人マインドはちおうじ マインドはちおうじ相談支援センター |
| 9 | 花形 朗子 | 社会福祉法人ときわ会 地域生活支援センターあさやけ |
| 10 | 藤井 亘 | NPO 法人クローパー |
| 11 | 吉澤 浩一 | NPO 法人ヒールライトねっと 相談支援センターくらふと |

【活動状況】

| 回数 | 日時 | 形式 | 議事 |
|--------|-----------|-------|-----------------------|
| 第 1 回 | 5 月 22 日 | 全体会 | 年間活動計画・方針等 |
| 第 2 回 | 6 月 6 日 | 作業チーム | 国研修受講準備 |
| 第 3 回 | 7 月 6 日 | 全体会 | 国研修受講報告、新カリキュラム準備 |
| 第 4 回 | 8 月 7 日 | 全体会 | 演習指導者養成研修他 |
| 第 5 回 | 9 月 3 日 | 作業チーム | 新カリキュラム準備 |
| 第 6 回 | 10 月 25 日 | 作業チーム | 新カリキュラム準備 |
| 第 7 回 | 11 月 22 日 | 作業チーム | 平成 31 年度のカリキュラムの取り扱い他 |
| 第 8 回 | 12 月 7 日 | 作業チーム | 専門コース別研修他 |
| 第 9 回 | 2 月 25 日 | 作業チーム | 主任相談支援専門員養成研修受講報告他 |
| 第 10 回 | 3 月 15 日 | 全体会 | 年間のまとめ |

活動成果1 東京都で活動する相談支援専門員の姿を可視化

私たちが目指す相談支援専門員の姿 ～障害当事者である本人の生活を支援するために～ Ver. 6案

東京都相談支援従事者研修検討会作成 第10回検討会用

東京都で活動する相談支援専門員の態度と姿勢は…

- 1) 一人ひとりの「暮らし」を知るために、障害当事者の声を聴く
- 2) 本人の思いや将来に向けた願いを受け止める
- 3) 本人とともにあらゆる社会資源を活用し、創り出す
- 4) 障害者ケアマネジメントの理念を具現化する役割を持つ
- 5) 本人自身が力を発揮できるようエンパワメントを支援する
- 6) まだ出会っていない、支援を必要とする人々の存在を想像する
- 7) 地域で人々が交流し、育ち合う中心になる

相談支援と地域

- 相談支援専門員は、
- 1) 地域を出発点とし、地域の強みと課題を把握して、ニーズに向き合う
 - 2) 利用者一人ひとりのニーズは地域のニーズと知っている
 - 3) 地域（自立支援）協議会を地域課題解決のツールとして活用する

- 【本人中心】：本人の思いや願いに寄り添い、本人中心の支援を行う
- 【社会モデル】：障害を社会の状況・環境との関係の中で理解し、とらえる
- 【エンパワメント】：本人が持っている力を信じる
- 【権利擁護】：人としての存在と尊厳を守り、あらゆる人権を尊重する
- 【地域に根ざす】：フィールドとする東京都及び区市町村の地域性の把握と、地域福祉の向上に努め続けることができる

【相談支援専門員の土台となるもの】

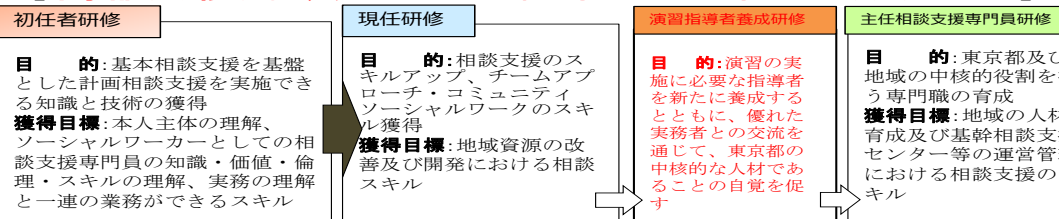
- ・東京都における障害福祉の歴史
- ・本人が暮らす地域とその社会資源の理解
- ・本人を理解するための、障害についての知識
- ・ケアマネジメントプロセスの基本的理解
- ・法制度や福祉サービスの知識

知識

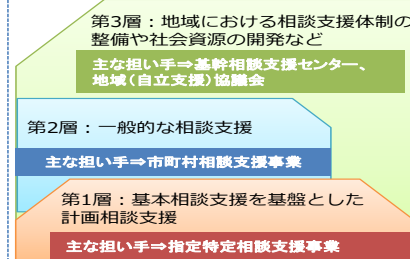
- 1) 本人と信頼関係を構築できる
- 2) 基本的な面接技術に習熟している
- 3) ニーズを的確に捉えることができる
- 4) わかりやすい計画を立案できる
- 5) サービス提供者や行政等と協働する力がある（交渉・調整）
- 6) 個別支援で得た地域課題を協議会等のネットワークを通じて積極的に発信・共有できる
- 7) 地域で人々が交流し、育ち合う働きかけができる（ファシリテーション、スーパービジョン）

技術

【東京都の研修のしくみ ～相談支援専門員もエンパワメントのプロセスをたどる～】



【国が考える、地域や立場の違いによる相談支援専門員の役割】



参考：「相談支援の質の向上に向けた検討会（厚生労働省科学研究）」「障害者（児）ケアマネジメントの過程における相談支援専門員等に求められる視点、行動（28.05.11東京都自立支援協議会）」「演習ノート」

活動成果2 新カリキュラム対応東京都版プログラム案作成

| | 新初任者研修 | 新現任研修 |
|-------|---|---|
| 対象者 | これから相談支援専門員となる者 | 更新希望者で、事業者からの推薦を得た者 |
| 日数と形式 | 講義 2 日 演習 5 日 | 講義 1 日 演習 3 日 |
| 事例 | 共通事例及び自身の事例 | 共通事例及び自身の事例 |
| 事前課題 | 演習ノートの読み込み | 事例の概要、地域資源の地図づくり |
| 主な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・演習 1・2 日目は現在のプログラムとほぼ同様 ・3・4 日目は、自身の事例を用いて 1・2 日目の流れを深める。 ・5 日目は、地域課題について考える ・演習の間に「実習」として事業所に戻り、課題を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別事例の検証 ・チームアプローチ ・コミュニティワーク ・演習の間にインターバル（実地研修）が入り、地域に戻って基幹相談支援センター等を活用した課題を行う。 |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・当事者サポーターは演習 1 日目に参加。参加の仕方はさらに検討予定 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在のプログラムを継承 ・研修への事例提出に必要な同意書を用意 |

来年度に向けて

（第 10 回検討会での議論のまとめ）

活動成果3 講師養成

演習指導者養成研修を実施

| | |
|--------|--|
| 対象者 | 初めて都研修でまとめ役を担う者 |
| 日数及び形式 | 講義及び演習 3 日間 |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・東京都の相談支援専門員の養成 ・東京における障害福祉の歴史 ・相談支援専門員とファシリテーションスキル |

活動成果4 専門コース別研修のテーマの検討

- ・ライフステージと相談支援
- ・相談支援と地域（地域移行、地域定着、触法）
- ・医療的ケア、難病、重症心身障害

活動成果5 主任相談支援専門員養成研修への参加

- ・国の実施する主任相談支援専門員養成研修（1/28～2/1）に検討会委員 5 名が参加し、情報収集するとともに都版プログラム作成の考え方を提案